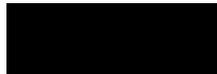


スペイン・バリャドリード大学
交換留学報告書

静岡県立大学 国際関係学部



2023年9月から2024年の2月7日まで、大学の交換留学制度を利用してスペインのバリャドリード大学で約半年間勉強をした。バリャドリード大学はいくつかのキャンパスに分かれているが、私が派遣されていたキャンパスはカスティーリャ・イ・レオン州のセゴビアという比較的小さな町にあるキャンパスであった。学部は、社会科学・司法・コミュニケーション科学部で、その中の観光学科と会社経営学科の授業を履修していた。本報告書では、主に派遣大学先と日常生活について述べていく。

まず、大学とそこでの授業についてである。前述したように、私は2つの学科の授業を履修しており、1つは観光学科の「観光社会学 (SOCIOLOGÍA DEL TURISMO)」であり、もう1つは会社経営学科の「社会学 (SOCIOLOGÍA)」である。どちらも社会学の授業であるのは、私が所属しているゼミが社会学系のゼミであり、交換留学の利点の1つでもある単位交換をするためである。観光社会学の授業は、そもそも観光学科の生徒数が少ないこともあり、私を含めて7人という少人数の授業であった。授業形式は、主に学内ポータルサイトにアップされるパワーポイントの資料やレジュメに沿っての講義形式であった。映画を見て、その映画の内容を講義の内容と関連させて分析したり、観光に関する広告やCMを取り上げ分析するという実践的なことも行ったりもした。

もう1つの社会学の授業では、社会学の基本的な枠組みや研究の仕方についての講義、また、新聞記事や文献の1部を取り上げ、現代社会で起きていることやその問題点等についての理解を深め、分析を行うといった内容であった。新聞で取り上げられる地域はスペインが主であったが、アメリカや中国などの大国やスペイン語圏である南米、さらに日本の話題が取り扱われた時もあり、スペインから見た日本を垣間見ることが出来た。どちらの授業も比重に多少の違いはあるが、評価は課題と最終試験の2つであった。観光社会学の課題は、個人作業で、7つ程ある中から4つ選んで提出するものであった。社会学の方は、ペア（人によってはグループ）ワークであり、セゴビアの持続可能な消費についての分析及び提案をするというものであった。最終試験は、どちらもスペイン語での記述式であった。私はまだまだ自分の語彙力、そして読解力が完璧ではないことが分かっていた為、事前に先生に申し出て、試験中に電子辞書の使用を許可して頂いた。普段の授業ももちろんスペイン語であり、ネイティブである先生方の話すスピードは私にとってとても早く、聞き取るのに苦労したが、「分からないことがあったら質問してね」や「最近授業はどう？」などと、とても気遣って下さりありがたかった。



(セゴビアキャンパス)



(セゴビアの街並み)

次に日常生活について述べていく。まず、住居についてだが、スペインでは「ピソ」という集合住宅のような場所でのシェアルームが多い。実際私も1人のスペイン人の女の子とのシェアルームであった。私のピソは、トイレとシャワーが2つあり、個別であったため、好きな時に利用でき便利であった。同居人も同じ大学に通っており、家を出る時間が同じときは一緒に登校したり、ご飯を食べたりすることもあった。また、同居人の好きなドラマを教えてもらったり、私はアニメが好きなので、一緒にアニメを観たりもした。家の近くには、スーパーもあり、大体の日用品はそこで購入していた。スペインのお店は、日曜日は基本的に閉まっているので、その点が日本と違い多少の不便さはあったものの、前日までに買い物は済ませ、お店が閉まっている日は、部屋の掃除をしたり、水道橋やマヨール広場がある中心地の方まで運動がてら散歩に行ったりして過ごした。セゴビアの水道橋は、とても大きく、いつ見ても圧巻であった。スペインの人々は、カフェやバルでお茶をしながらおしゃべりしていたり、電話をしながら歩いたり、また街中で話し込んでいる姿もよく見かけ、おしゃべりが好きという印象であった。日本のような忙しなさを感じる事があまりなく、穏やかに楽しい時間を過ごせたと思う。



(セゴビアの大聖堂)



(コロッケと huevos rotos)

留学中には何度か国外に旅行にも行った。大体の国が飛行機で約2~3時間ほどで行けるため、国内旅行と同じくらい海外旅行が身近に感じるのではないかなと思う。12月のはじめ頃に南ドイツに行き、年末年始にロンドン、最終試験が終わった1月下旬にベネチアとプラハに行った。写真集で見て中学生の頃から行きたかった町にも行け、滞在先の hostel で出会った人達とおしゃべりをするのはとても楽しく、貴重な体験であった。電車に乗るときや、お店でご飯を注文するときなどに現地の人に助けってもらったことも多々あり、観光だけでなく、人々の優しさをたくさん感じた旅となった。

「大学で留学をする」ということが高校の時から目標であったため、その目標を達成できると嬉しく思う。また、単位交換ができ、静岡県立大学に学費を納めていれば、派遣先の大学の授業料は免除され、私費留学に比べ費用を抑えられるという点が交換留学のメリットであると言えよう。選考で少しでも役立つように、普段の授業で出来るだけ良い単位を取ってGPAを上げたり、1年生の頃から少しずつスペイン語検定を受けたりした。しかし、一番大事なのは、やはり動機や留学中に何がしたいかということであって、留学への強い思いがあれば、誰にでもチャンスはあると思う。私は静岡県立大学で勉強しているうちに途上国に興味が出てきたため、悩んだ末に専門コースはアジア研究を選んだが、ヨーロッパの言語や建築に興味があり、日本とは全く異なるヨーロッパの国で生活をし、自分の人生経験を積みたいという思いは残っていたので、スペインに留学することを決めた。卒業研究に役立つことは難しいかもしれないが、「留学」という経験をできたことは今後の人生において

役に立つと思う。

最後に、ご迷惑をたくさんおかけしたが、留学をサポートして下さった森先生や国際交流室の方々、派遣先のバリアドリード大学の関係者様、留学を後押ししてくれた家族に感謝申し上げます。